

## 模擬保育見学による初心者学生の意識の変化

池上 貴美子\* 前川 智恵子\*\* 上田 智佳\*\*\*  
種子田 順子\*\*\*\* 千原 智美\*\*\*\*\* 畑 啓子\*\*\*\*\*

### A study on Consciousness Change of Novice Students in Observing Simulated Childcare

Kimiko IKEGAMI\*, Chieko MAEGAWA\*\*, Chika UEDA\*\*\*,  
Junko TANEDA\*\*\*\*, Satomi CHIHARA\*\*\*\*\* & Keiko HATA\*\*\*\*\*

#### Abstract

The purpose of this study was to examine the effects of observing simulated childcare on consciousness change of novice students in the nursery teacher training courses through the longitudinal and cross-sectional analyses. First grade students were asked to respond to sixteen items constructing of simulated childcare concerning their own abilities to conceive and to perform. They were asked during three periods, before the observation, after the observation of expertise second grade students, and after the observations of first grade students. Results revealed that there was a main effect of the period, mean scores were significantly higher after the observation than before. Especially mean scores on items containing technical terms for childcare were significantly higher after the observation than before. And in such items there was a main effect of the grade, mean scores of second grade students were significantly higher than first grade students before the observation, and mean scores of second grade students were higher after the observations than before. These results suggest that observations of simulated childcare affect the consciousness changes in ability to conceive and to perform

#### 要 旨

本研究では幼児教育保育を専攻する初心者学生の模擬保育見学による意識の変化の過程を検討した。I回生を対象に模擬保育を構成する16項目について自身の構想可能性と行動可能性に関して、模擬保育を見学する前と、先輩の模擬保育を見学した後と、同輩の模擬保育を見学した後の3回の時期にわたって縦断的に調査し、II回生にも同時期に同調査を行いI回生と横断的な比較分析を行った。その結果、構想可能性にも行動可能性にも時期の主効果があり、各々の平均値は見学前よりも見学後の方が高かった。特に保育専門用語を含む項目の平均値は、模擬保育見学前には低いが、先輩の模擬保育を見学した後は有意に高くなり、その高さは同輩の模擬保育見学後にも継続した。またII回生のこれらの項目の平均値は模擬保育見学前にすでにI回生よりも高く、同輩の模擬保育見学後はさらに高くなった。この結果は、初心者学生にとって模擬保育の見学が構想可能性と行動可能性の意識の変化に影響を及ぼすことを示唆している。

Key Words : differences between before the observation and after the observation, differences between first grade students and second grade students, observation of simulated childcare,

キーワード : 見学前と見学後の時期による差異、学年間の差異、模擬保育見学の影響

---

\* 本学特任教授  
\*\* 本学専任講師  
\*\*\* 本学専任講師  
\*\*\*\* 本学特任専任講師  
\*\*\*\*\* 本学准教授  
\*\*\*\*\* 本学特任准教授

論文(原著) : 2018年1月5日受付 2018年1月26日受理

## はじめに

文部科学省(2017)の文部科学省初等中等教育局教職員課による「教職員免許法同施行規則の改正及び教職課程コアカリキュラムについて」に関わる資料の中で、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上に向けて～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」の答申が示され、研修、採用、養成の課題が挙げられている。養成の課題として、①教員となる際に最低限必要な基礎的・基盤的知識、②学校現場や教職に関する実際に体験させる機会の充実、③教職課程の質の保証・向上、④教科・教職に関する科目の分断と細分化の改善の必要性が示されている。従来より保育専門職の養成においては「保育実践力」を自ら育て、専門的知識と実践力を統合できる学生の育成が求められてきた。この答申により、保育に関する最低限の基礎的知識や専門的知識を理解し、技能・実践力と統合させ、教科の細分化を改善して、学びが全体として一人の子どもの中に実現できる、より実践的指導力のある教員を養成するためのさらなる方向性が示されている。

## 問 題

本学の保育実習指導と教育実習指導の授業においても、教職に関する実践的な機会の充実を保証し、「保育実践力」の育成に向けた学びの場を提供するため、保育実習および教育実習に役立つ有効な方法と内容を模索してきた。その中でも保育を専攻する学生が授業の中で保育者役になり模擬保育を行うことは、実践力をつけるために大変効果的であり、専門的知識と技能の統合を学ぶ機会となることが注目されてきた。例えば上村(2013)は、模擬保育の効果について、活動を振り返り考察したり課題点を見出したりする省察力の向上を示唆し、模擬保育が即応力だけでなく、見とり力・省察力を含めた総合的な保育実践力の向上に寄与する取り組みであることを指摘している。また松山(2010)は、模擬保育を行うことが学生自らの保育への考え方を見直す作業を促すことを指摘している。この見直す作業を支える力として、仲間の存在や現場の保育者のアドバイスが重要であり、学生が模擬保育終了後の情報交換を通して自身の行った保育と共に同輩の模擬保育に興味を示し、実際に実習の現場で行う、模擬保育の実際の・現実的な側面をも報告している。

しかしながら先行研究によると、必ずしも全員の学

生が保育者役をする機会に恵まれるとはいえない現状がある。一方、本学では保育実習および教育実習へ行く前には、学生全員が必ず保育実習指導および教育実習指導の授業において保育者役を経験する模擬保育を行っている。初心者学生(以下、「I回生」と称す)は、夏休みに初実習となる保育実習I(保育所)を経験する。入学して間もない段階で、指導案を書いて模擬保育を行うには知識も経験もないため、学生たちには不安が多い。本学の取組みとして、2014年度よりI回生は5月中旬に先輩学生(以下、「II回生」と称す)の中から選抜された学生の模擬保育を見学している。その結果、導入から主活動、まとめに至るまで一連の保育を見学することにより、模擬保育を具体的にイメージしやすくなり、自身が模擬保育を行うための指導案作成も含めて保育実践への理解がスムーズに進められることが学生から報告されている。そこで本研究では、学生の意識の変化の過程を客観的に分析し、そのエビデンスを基に今後の実践力を育成する授業を志向することとする。

すでに畑・池上・上田・種子田(2017)は模擬保育に関する質問項目の内容を精査し、16項目の質問内容を挙げた。本研究では、I回生がII回生の模擬保育を見学することにより、この16項目について、構想可能性—保育実践をイメージし、考えられるようになったか—と、行動可能性—自身ができると思うようになったか—についての変化の過程を調査する。さらに自身が模擬保育を行い、同輩の模擬保育を見学することが保育実践のイメージを増加させて、構想可能性と行動可能性を増加させることに役立ったかについても調査し、その意識の変化の過程を縦断的に分析する。

畑・池上・上田・種子田(2017)の結果は、I回生がII回生の模擬保育を見学し、構想可能性と行動可能性の意識が高まることを明らかにした。身近でありながら選抜された先輩の模擬保育を見学することが、入学間もない不安なI回生にとって有効なモデルとなり、保育についての具体的な知識と実践の姿を与える機会となることが推察された。特に16項目のうち初めて出会う保育の専門用語を含む「ねらいの設定」「指導案の企画」「内容の整合性」「導入の工夫」「5領域との関連性」等に対する構想可能性の平均値は、模擬保育見学前には低かった(イメージしにくく、考えにくかった)が、II回生の模擬保育を見学した後では、平均値が有意に高くなった。行動可能性についても同様の様相が現れた。そして構想可能性よりも行動可能性の方が全般的に平均値は高く、初心者学生が、16項目につい

てイメージし考えるよりも、自分もできるという実際の遂行可能性の意識を高くもつことが明らかになった。ただし、調査協力者の人数が少ない中でさらに分析に有効な協力者数が限られたこと、調査の回答には4件法が用いられたことを考慮し、本研究では調査協力者の人数を増やし、かつ6件法を用いてさらに詳細な分析を行うこととする。

また本研究ではI回生の調査時期と同時期にII回生にも同じ調査を施行し、I回生とII回生を横断的に比較分析することにより、I回生の1年後の姿を予測する試みを行う。

本研究の仮説として、畑・池上・上田・種子田(2017)の結果より以下のことが想定される。

1. I回生にとって4月に初めて出会う保育の専門用語を含む「ねらいの設定」「指導案の企画」「内容の整合性」「導入の工夫」「5領域との関連性」の項目に対する構想可能性と行動可能性の平均値は低いであろう(下線部は保育関連の専門用語)。
2. しかしながら選抜されたII回生の模擬保育を見学した後では、これらの項目に対する構想可能性と行動可能性の平均値は高くなるであろう。
3. さらに自身も模擬保育を行いI回生の模擬保育を見学した後も、構想可能性と行動可能性の平均値は高いままであろう。
4. 学年差に関して、専門用語を含む前記の項目に対するII回生の平均値は、学修経験によりI回生よりも高く、同輩の模擬保育見学後はさらに高くなるであろう。
5. 模擬保育見学前のI回生にとっても現実的に理解しやすい「準備物」「言葉かけ」「表情・笑顔」「身だしなみ」「楽しむ」項目に対する構想可能性と行動可能性の平均値は、保育の専門用語を含む項目に比較して高く、かつ模擬保育見学後にはさらに高まるであろう。
6. I回生から現実的に理解しやすいこれらの項目に対する平均値は、I回生から高いので、II回生との学年差は生じにくいであろう。
7. 自身の遂行に関する行動可能性の方が、認知的側面に関する構想可能性よりも全体的に模擬保育を見学するにしたがって平均値は高くなるであろう。

以上の仮説をもとに、模擬保育に関する学生の意識の変化についての分析を行い、授業のさらなる開発を目指すこととする。

## 目 的

本研究では、入学間もないI回生を対象として、選抜されたII回生の模擬保育を見学し、さらに同輩I回生の模擬保育を見学することによる構想可能性と行動可能性の意識の変化について縦断的に分析する。さらにII回生にも同時期に同調査を行いI回生と比較する横断的分析を行って模擬保育見学の長期的影響について検討する。

## 方 法

**研究計画** 模擬保育見学の時期(3:選抜されたII回生の模擬保育見学前、選抜されたII回生の模擬保育見学後、I回生の模擬保育見学後)×学年(2:I回生、II回生)の二元配置の要因計画であり、時期は参加者内要因で、学年は参加者間要因であった。

**参加者** 兵庫県下の短期大学に在籍する幼児教育保育学科のI回生32名とII回生20名の計52名

### 調査時期

- I回生：第1回 2017年4月下旬  
(選抜されたII回生の模擬保育見学 前)  
第2回 2017年5月中旬  
(選抜されたII回生の模擬保育見学 後)  
第3回 2017年7月下旬  
(I回生の模擬保育見学 後)
- II回生：第1回 2017年4月下旬  
(II回生の模擬保育見学 前)  
第2回 2017年5月中旬  
(II回生の模擬保育見学 後)  
第3回 2017年7月下旬  
(II回生の模擬保育見学 後)

### 調査の手続きと模擬保育の取り組み

I回生は「保育実習指導I」の授業において、選抜されたII回生4名(A、B、C、D)が保育者役をする5歳児を対象とした1人20分程度の以下の模擬保育を子ども役として見学した。

- A：ねらい ・合図に合わせて即時に反応し、じゃんけんをしながら社会性を育む  
・友達同士の活動の中で一緒に行う楽しさを感じられるようにする
- 内容 ・じゃんけん列車をする

B：ねらい ・みんなで一緒にリズムに合わせて体を動かす楽しさを味わう

内容 ・「げんきげんきマーチ」を踊る

C：ねらい ・音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを味わう

内容 ・春の歌に合わせて体を動かす  
・パネルシアター「春の歌」を歌う

D：ねらい ・ルールを理解し、みんなで楽しく遊ぶ

内容 ・フルーツバスケットをする

次に7月に入り「保育実習指導Ⅰ」でⅠ回生自身及び同輩が全員保育者役と子ども役を経験する模擬保育を行った。3歳児を対象として自由な題材を選んだ。その中からいくつかの例を以下に示す。

E：ねらい ・絵本の読み聞かせを聞き、歯磨きの大切さがわかり、歯磨きをしようとする気持ちをもつ

・手遊びを楽しみながら歯磨きの楽しさを知る

内容 ・手遊び「歯みがきしましょう」 絵本「歯みがきシュッシュ」

F：ねらい ・友達と遊ぶ楽しさを感じ、自分たちで遊ぼうとする意欲を育む

内容 ・手遊び「ワニのかぞく」 絵本「でんしゃでいこう でんしゃでかえろう」

G：ねらい ・手遊びを楽しみ、身近な梅雨に親しむ

内容 ・手遊び「かたつむり」 絵本「たまごのあかちゃん」

Ⅱ回生は「教育実習指導」の授業において、5～6人で構成されるグループの中で、Ⅱ回生自身が全員保育者役となり5歳児を対象とした1人20分程度の模擬保育を行い、また子ども役として同輩の模擬保育を見学した。その中からいくつかの例を以下に示す。

H：ねらい ・考えたことを言葉や動きに表して一緒に歌ったり動いたりすることを楽しむ

内容 ・「バスに乗って」の身体遊びをする  
・「猛獣狩りに行こうよ」のゲームをする

I：ねらい ・梅雨の時期の自然現象に興味をもち、季節を感じる遊びをする

内容 ・みんなで一つの物を作る喜びを感じる  
・梅雨時期の話聞く  
・銚子を使ってカタツムリを作る  
・折紙でアジサイの花びらを作り、みん

なでアジサイの花を作る

J：ねらい ・ルールを理解し、みんなで遊びを楽しむ

・音楽に合わせて遊びを楽しむ

内容 ・帽子お化けのゲームをする

7月に入り「教育実習指導」でⅡ回生自身が保育者役となる2歳児を対象とする全日保育を計画し、登園から降園まで順次模擬保育を行った。その中で主活動の例を以下にあげる。

K：ねらい ・友達と製作を楽しむ

・絵本や製作を通して色の変化に興味をもつ

内容 ・絵本「いろいろのほん」を見る  
・カラフルなさかなを作る

L：ねらい ・風船を手で押したときの感触や、ふわふわと動く風船の動きを楽しむ

・新聞紙をちぎる感触や音を楽しむ

・片づけを楽しみながら部屋をきれいに  
する気持ちよさを感じる

内容 ・風船で遊ぶ

・新聞紙を使って遊ぶ

M：ねらい ・お祭りごっこに参加し、周りの人の声掛けや遊び方を見てごっこ遊びをする

・手指を使う遊びに取り組み、発達を促す経験をする

・自分の表現したい色を決めて好きなかき氷を作る

内容 ・お祭りごっこでつかみ取りやキャップ差し、お手玉投げをする

・かき氷をつくる

## 調査内容

表1と表2に示す16項目に対して、構想可能性一どの位イメージし、考えられるか—と、行動可能性一どの位自分ができると思うか—について6件法で回答を求めた。構想可能性については、各項目に対して、6 大変よく考えられる 5 考えられる 4 少し考えられる 3 あまり考えられない 2 考えられない 1 全く考えられない のうちの一つを選択するよう求め、行動可能性については、6 非常にできる 5 できる 4 少しできる 3 あまりできない 2 できない 1 全くできない のうちの一つを選択するよう求めた。

Ⅰ回生には、第1回（選抜されたⅡ回生の模擬保育を見学する前）と、第2回（選抜されたⅡ回生の模擬保

育を見学した後)と、第3回(自身も模擬保育を行いましたI回生の模擬保育を見学した後)の3時期に調査を行った。II回生には、I回生と同時期の第1回(模擬保育を見学する前)と、第2回(自身も模擬保育を行い、II回生の模擬保育を見学した後)と、第3回(自身も模擬保育を行い、II回生の模擬保育を見学した後)の3時期に調査を行った。II回生はもはや先輩の模擬保育を見学することはないが、自身も模擬保育を行い、子ども役となって同輩・II回生の模擬保育を見学した。

## 分析方法

各16項目について3時期の平均値を求め、3(時期)×2(学年)の2要因分散分析を行った。

結果とも関連するが、表1に構想可能性の16項目について、3時期における平均値と標準偏差(SD)を学年ごとに示した。また平均値の時期および学年間の差(以後、学年差と称す)と交互作用の有意性の検定を行い、F値と有意水準(p)を示した。行動可能性の16項目についても同様の分析を行い、表2に示した。有意差があった項目については、時期間ではライアン法による多重比較を行ない、見学前と見学後の平均値間の高低差を模式的に略号(<)で示した。例えば、前<後≡後 は平均値が第1回目(見学前)よりも第2回目(見学後)が統計的に有意に高く、それは第3回目(見学後)とは有意差が無かったことを表す。つまり左から順に調査時期の第1回目、第2回目、第3回目を示しそれらの有意差の関係を表記した。

## 倫理的配慮

本研究は甲子園短期大学が定める倫理委員会による倫理審査を受け、その実施を許可されたものであり、また実施の際にはその規定を遵守した(承認番号第2017-004)。参加者に対する倫理的配慮として、調査内容は授業の成績には一切関係しないこと、調査の回答内容は、全体的傾向を知るために統計的に処理し、個別に検討及び公表することはないこと、個人情報に抵触するものを含め回答内容は外部に漏れることがなく、分析が終了後破棄されることを調査用紙に記載し、かつ口頭でも説明した。I回生には「保育実習指導Iにおける模擬保育見学についての意識調査」、II回生には「教育実習指導における模擬保育見学についての意識調査」への協力を依頼して同意を得られた学生を対象に、短期大学内の講義室において集団調査を行った。

## 結果と考察

I回生の構想可能性および行動可能性の3時期にわたる意識の変化と、II回生との学年差を分析するために、各16項目について各学年における各時期の平均値を求め、3(時期)×2(学年)の2要因分散分析を行った。その結果、構想可能性(表1参照)および行動可能性(表2参照)の全項目において時期の主効果が有意で、全体として可能性の意識は模擬保育見学前よりも見学後で高くなったことが明らかになった。構想可能性と行動可能性についての意識の変化を以下に詳しく見ていく。

### 1. 構想可能性についての平均値の推移

表1に示すように、I回生の各項目の平均値は模擬保育見学前よりも見学後の方が高く、全項目において、時期の主効果があり、見学前と見学後の間に統計的な有意差がみられた。ただし、いくつかの項目を除き、全体として、(第2回目)選抜されたII回生の模擬保育見学後と、(第3回目)I回生の模擬保育見学後の平均値間には有意差はなかった(模擬保育見学前<II回生の模擬保育見学後≡I回生の模擬保育見学後)。よってI回生は、選抜されたII回生の模擬保育を見学することにより、模擬保育を構成する項目についてイメージし考えることができる構想可能性の意識が高くなったことが明らかとなった。

特に、見学前の平均値が全項目の中でも相対的に最も低い「ねらいの設定」「指導案の企画」「内容の整合性」「導入の工夫」「5領域との関連性」の平均値は各々3.188、3.000、3.031、3.156、3.000であり、構想を「あまり考えられない」否定的な反応であった。しかしながら、選抜されたII回生の模擬保育を見学した後では、平均値は各々4.406、4.094、4.250、4.094、3.812となり、構想を「少し考えられる」肯定的反応へと変化した。つまりこれらの項目について、模擬保育見学前には専門用語に対して、具体的なイメージがわきにくく理解しにくかったが、選抜されたII回生の模擬保育を見学した後では、構想できると思ったことが示唆された。

さらにこれらの項目には学年差の主効果もあった。「ねらいの設定」「指導案の企画」「内容の整合性」「導入の工夫」「5領域との関連づけ」は、前述のとおりI回生では構想可能性の意識はあまり高くないが、II回生になると構想可能性の意識が高くなり、学修の成果

表1 構想可能性の各時期と各学年における平均値と標準偏差および各項目の分散分析の結果

	見学前(前と表記) 平均値 S.D.	見学後(後2と表記) 平均値 S.D.	見学後(後3と表記) 平均値 S.D.	Fの自由度	F値	p値	有意差の所在
1. ねらいの設定	1年生	3.188	4.406	4.281	11.819	p<.005	前と後3で1年生<2年生
	2年生	4.350	4.500	4.800	21.382	p<.001	前<後≒後 前≒後<後
2. 指導案の企画	1年生	3.000	4.094	4.406	8.664	p<.001	前と後2で1年生<2年生
	2年生	4.200	4.550	4.700	35.997	p<.001	1年生 前<後≒後 2年生 前<後≒後
3. 内容の整合性	1年生	3.031	4.250	4.406	8.501	p<.001	前で1年生<2年生
	2年生	4.150	4.550	4.700	10.512	p<.005	前<後≒後 前<後≒後
4. 導入の工夫	1年生	3.156	4.094	4.344	39.71	p<.001	1年生 前<後≒後 2年生 前<後≒後
	2年生	4.000	4.400	4.800	7.982	p<.01	前と後2で1年生<2年生
5. 準備物	1年生	3.625	4.531	4.875	39.683	p<.001	1年生 前<後≒後 2年生 前<後<後
	2年生	4.450	4.650	4.850	2.973	p<.10	前で1年生<2年生
6. 言葉かけ	1年生	3.938	4.531	4.531	2.651	ns	1年生 前<後<後 2年生 前<後<後
	2年生	4.250	4.450	4.950	20.861	p<.001	1年生 前<後<後 2年生 なし
7. 表情・笑顔	1年生	4.812	5.375	5.250	6.108	p<.001	全体で前<後≒後
	2年生	4.900	5.000	5.250	12.691	ns	全体で前<後≒後
8. 身だしなみ	1年生	4.844	5.375	5.375	2.609	ns	全体で前<後≒後
	2年生	4.950	5.300	5.300	0.006	p<.005	全体で前<後≒後
9. 時間配分	1年生	3.438	4.281	4.438	14.258	p<.001	全体で前<後≒後
	2年生	4.200	4.250	4.600	0.603	ns	全体で前<後≒後
10. 臨機応変	1年生	3.438	4.062	4.125	1.58	ns	前で1年生<2年生
	2年生	4.150	3.300	4.650	15.367	p<.001	1年生 前<後≒後 2年生 前<後≒後
11. 安全環境	1年生	4.188	4.875	4.562	5.237	p<.01	1年生 前<後≒後 2年生 なし
	2年生	4.700	4.700	4.950	5.203	p<.05	1年生<2年生
12. 子の活動予測	1年生	3.781	4.000	4.031	10.969	p<.001	1年生 前<後≒後 2年生 前<後≒後
	2年生	4.100	4.250	4.800	1.727	ns	前と後3で1年生<2年生
13. 個別配慮	1年生	3.688	4.219	4.188	2.31	ns	1年生 前<後≒後 2年生 前<後≒後
	2年生	4.250	4.400	4.700	5.095	p<.01	1年生 前<後≒後 2年生 前<後≒後
14. 発達過程	1年生	3.531	4.031	4.125	4.727	p<.05	1年生 前<後≒後 2年生 なし
	2年生	4.250	4.350	4.700	6.905	p<.05	1年生<2年生 前<後3
15. 楽しむ	1年生	4.094	4.750	4.950	5.641	p<.005	1年生<2年生 全体で前<後≒後
	2年生	4.750	4.850	4.950	1.459	ns	1年生<2年生 前<後≒後
16. 五領域	1年生	3.000	3.812	3.969	11.209	p<.005	前で1年生<2年生
	2年生	4.450	4.450	4.850	10.366	p<.001	1年生 前<後≒後 2年生 前<後≒後
					1.55	ns	前で1年生<2年生
					0.623	ns	1年生 前<後≒後 2年生 前<後≒後
					8.762	p<.001	1年生 前<後≒後 2年生 なし
					4.075	p<.05	1年生<2年生
					23.256	p<.001	1年生<2年生
					13.705	p<.001	1年生 前<後≒後 2年生 なし
					5.028	p<.01	2年生 前<後≒後

表2 行動可能性の各時期と各学年における平均値と標準偏差および各項目の分散分析の結果

項目	回数	見学前(前と表記)		見学後(後2と表記)		見学後(後3と表記)		Fの自由度	F値	p値	有意差の所在
		平均値	S.D.	平均値	S.D.	平均値	S.D.				
1. ねらいの設定	1回生	3.125	0.960	4.031	0.847	4.156	0.755	13.079	13.079	p<.001	全時期1回生<2回生
	2回生	4.200	0.600	4.500	0.592	4.500	0.589	21.118	21.118	p<.001	1回生 前<後≒後 2回生 なし
2. 指導案の企画	1回生	3.062	1.059	3.844	0.833	4.438	0.747	5.21	5.21	p<.05	前と後2で1回生<2回生
	2回生	4.050	0.669	4.500	0.500	4.450	0.589	26.932	26.932	p<.001	1回生 前<後<後 2回生 なし
3. 内容の整合性	1回生	3.188	0.982	3.844	0.833	4.250	0.750	8.004	8.004	p<.001	前と後2で1回生<2回生
	2回生	4.100	0.700	4.500	0.592	4.550	0.589	10.691	10.691	p<.005	前と後2で1回生<2回生
4. 導入の工夫	1回生	3.156	1.003	3.875	0.960	4.438	0.788	26.612	26.612	p<.001	1回生 前<後<後
	2回生	4.050	0.589	4.400	0.490	4.450	0.589	4.184	4.184	p<.05	2回生 前<後≒後
5. 準備物	1回生	4.000	1.118	4.562	0.998	4.875	0.740	7.012	7.012	p<.05	前と後2で1回生<2回生
	2回生	4.450	0.589	4.600	0.735	4.900	0.768	22.072	22.072	p<.001	1回生 前<後<後 2回生 なし
6. 言葉かけ	1回生	4.125	1.083	4.469	0.790	4.375	0.820	5.971	5.971	ns	全体で前<後<後
	2回生	4.300	0.458	4.450	0.497	4.900	0.700	11.279	11.279	p<.001	全体で前≒後<後
7. 表情・笑顔	1回生	4.906	0.879	5.062	0.933	5.281	0.717	1.860	1.860	ns	全体で前≒後<後
	2回生	4.700	0.781	4.950	0.740	5.200	0.600	4.797	4.797	p<.05	全体で前≒後<後
8. 身だしなみ	1回生	4.969	0.883	5.062	1.509	5.219	0.695	2.000	2.000	ns	全体で前≒後<後
	2回生	4.900	0.700	5.150	0.726	5.150	0.726	0.182	0.182	ns	全体で前≒後<後
9. 時間配分	1回生	3.594	1.221	4.000	1.031	4.031	0.874	0.007	0.007	ns	全体で前≒後<後
	2回生	3.950	0.669	4.100	0.624	4.700	0.714	2.505	2.505	p<.10	全体で前≒後<後
10. 臨機応変	1回生	3.562	1.116	3.906	1.011	4.125	0.893	0.312	0.312	ns	1回生<2回生傾向
	2回生	4.100	0.624	4.200	0.600	4.450	0.699	2.959	2.959	p<.10	全体で前≒後<後
11. 安全環境	1回生	4.156	1.034	4.500	1.031	4.656	0.643	2.275	2.275	ns	1回生<2回生傾向
	2回生	4.650	0.654	4.750	0.536	4.850	0.654	3.585	3.585	p<.10	全体で前≒後<後
12. 子の活動予測	1回生	3.531	1.060	3.875	0.893	4.062	0.704	0.475	0.475	ns	1回生<2回生傾向
	2回生	4.050	0.589	4.400	0.663	4.700	0.714	5.626	5.626	p<.005	全体で前≒後<後
13. 個別配慮	1回生	3.688	1.014	3.969	0.770	4.125	0.740	0.768	0.768	ns	1回生<2回生
	2回生	4.050	0.589	4.400	0.583	4.800	0.748	10.547	10.547	p<.001	全体で前<後≒後
14. 発達過程	1回生	3.656	0.852	3.750	0.866	4.000	0.707	0.134	0.134	ns	1回生<2回生
	2回生	4.050	0.497	4.300	0.557	4.650	0.853	7.939	7.939	p<.01	全体で前<後≒後
15. 楽しむ	1回生	4.188	1.424	4.781	1.166	4.906	0.980	11.269	11.269	p<.001	1回生<2回生
	2回生	4.450	0.973	4.800	0.678	5.150	0.726	0.861	0.861	ns	全体で前<後≒後
16. 五領域との関連	1回生	3.250	1.146	3.781	0.960	3.875	0.857	9.103	9.103	p<.005	1回生<2回生
	2回生	4.300	0.781	4.400	0.663	4.800	0.748	8.863	8.863	p<.001	全体で前<後≒後
								0.648	0.648	ns	全体で前<後≒後
								0.448	0.448	ns	全体で前<後≒後
								12.424	12.424	p<.001	全体で前<後≒後
								0.438	0.438	NS	全体で前<後≒後
								16.713	16.713	p<.001	全てで1回生<2回生
								8.776	8.776	p<.001	全体で前<後≒後
								1.359	1.359	ns	全体で前<後≒後

が伺えた。ただしこれらの項目には交互作用がみられており、詳細な様相は表1に示すとおりである。

見学前の平均値が相対的に次に低い「臨機応変」「子どもの活動の予測」「個別配慮」「子どもの発達過程への配慮」には、時期と学年差の主効果があった。I回生の見学前の平均値は各々3.438、3.781、3.688、3.531で、「あまり考えられない」否定的反応であったが、選抜されたII回生の模擬保育を見学した後の平均値は各々4.062、4.000、4.219、4.031と「少し考えられる」肯定的反応となり、模擬保育見学の効果がみられた。さらに学年差を見ると、II回生の4月の平均値は各々4.150、4.100、4.250、4.250で、「少し考えられる」肯定的反応となっており、学修の経験がこの結果をもたらしたことが推察された。II回生ではさらに7月には平均値が各々4.650、4.800、4.700、4.700となり、同輩の模擬保育見学が構想可能性の意識をさらに高くさせることが示唆された。

以上よりI回生の見学前に構想可能性の平均値が低い項目は、選抜されたII回生の模擬保育を見学した後には高くなり、かつII回生になると見学前ですでに平均値が高く、同輩の模擬保育を見学した後は更に高くなることが明らかとなった。すなわち模擬保育を見学した効果が現れたと言える。

次に、模擬保育見学前から平均値が相対的に高かった「言葉かけ」「表情・笑顔」「身だしなみ」「準備物」「時間配分」「楽しむ」「安全環境への配慮」の項目には時期の主効果はあったが、学年差の主効果はなかった。つまり平均値はI回生から高いままであった。その中で、「言葉かけ」「表情・笑顔」「身だしなみ」は交互作用もなく、I回生は模擬保育見学前からこれらの項目に対する構想可能性の平均値は各々3.938、4.812、4.844と高く、見学後にさらに高くなった(見学前<見学後≡見学後)。II回生においても同輩の模擬保育を見学する前よりも見学後が平均値は高かった。つまりこれらの項目については、見学前より見学後が構想可能性の意識は高いが、I回生からイメージしやすく、構想可能性の高さはそのままII回生へと持続したことが推察された。ただし「準備物」「時間配分」「楽しむ」「安全配慮」については交互作用がみられており、詳細は表1に示すとおりであった。

全体として学年差の主効果がなかったこれらの項目については、模擬保育見学前より見学後に構想可能性が高くなるが、I回生の時から、イメージし考えやすい項目であることが示唆された。つまり、身だしなみ

を整え、表情よく笑顔で、言葉かけをしながら、自身も模擬保育を楽しむことについては、I回生においてもイメージし考えることのできる内容であることが推察された。

以上より、入学間もないI回生の頃には、専門用語で構成される項目は現実的な理解に遠く、具体的なイメージに結びつきにくい、身近でかつ優れたII回生の模擬保育を見学することにより、実践に繋がる構想を得る可能性が生じたことが推察された。さらに、引き続きII回生での実習指導の授業において模擬保育を行い見学する中で、構想可能性の意識は高まることが推察された。

このようにI回生は先輩や同輩の模擬保育を見学する中で、多くのことに気づき、それらを1~16項目に照らし合わせて回答することで、学びを具体的に理解し、イメージしやすくなったことを実感したことが伺える。

## 2. 行動可能性についての平均値の推移

表2に示すように、I回生の各項目の平均値は模擬保育見学前よりも見学後の方が高く、全項目において、時期の主効果があり、見学前と見学後の間に統計的な有意差がみられた。全体として、選抜されたII回生の模擬保育を見学した後で行動可能性は高まった。さらにI回生の模擬保育を見学した後は平均値が高まる項目があった(模擬保育見学前<II回生の模擬保育見学後<I回生の模擬保育見学後)。よってI回生は、選抜されたII回生の模擬保育を見学し、さらに自身も模擬保育を行いI回生の模擬保育を見学することにより、自身もできると思う行動可能性の意識が高まったことが明らかとなった。

特に、見学前の行動可能性の平均値が相対的に最も低い「ねらいの設定」「指導案の企画」「内容の整合性」「導入の工夫」「5領域との関連性」の見学前の平均値は各々3.125、3.062、3.188、3.156、3.250であり、自身が「あまりできない」という否定的な反応であった。しかしながら、選抜されたII回生の模擬保育を見学した後は、平均値は各々4.031、3.844、3.844、3.875、3.781と相対的に高くなった。この中でも「指導案の企画」「内容の整合性」「導入の工夫」については、I回生の模擬保育を見学した後は、平均値はさらに各々4.438、4.250、4.438となり「少しできる」肯定的反応へと変化した。

見学前の行動可能性の平均値が次に相対的に低い

項目は、「時間配分」「臨機応変」「子の活動予測」「個別配慮」「発達過程」で、平均値は各々3.594、3.562、3.531、3.688、3.656で「あまりできない」否定的反応であった。選抜されたⅡ回生の模擬保育見学後には各々4.000、3.906、3.875、3.969、3.750となり「少しできる」肯定的反応に近づき、さらにⅠ回生の模擬保育見学後には各々4.031、4.125、4.062、4.125、4.000と「少しできる」肯定的反応へと変化した(ただしアンダーラインされた数値には時期間の有意差はなかった)。これらの項目には、学年差の傾向もありⅡ回生の4月にはさらに平均値が高くなり、学修の影響が推察された。さらにⅡ回生において同輩の模擬保育見学後には、行動可能性は高くなり、模擬保育見学の影響が推察された。「安全環境」は見学前の平均値は4.156で、学年差があり(Ⅰ回生<Ⅱ回生)、全体の平均値は見学前と見学後には有意差が無かったが、7月の見学後には高くなった(見学前=見学後<見学後)。

一方、見学前から平均値が相対的に高い「準備物」「言葉かけ」「表情・笑顔」「身だしなみ」「楽しむ」項目の平均値は、見学前から各々4.000、4.125、4.906、4.969、4.188であり、自身で「少しできる」という肯定的反応であった。選抜されたⅡ回生の模擬保育見学後には平均値は各々4.562、4.469、5.062、5.062、4.781となり、同輩の模擬保育見学後にはさらに高くなって、自身が「できる」肯定的反応へと変わった。これらの項目には学年差の主効果も交互作用もなく、Ⅰ回生から、準備をして、身だしなみを整え、笑顔の表情で、言葉かけをしながら、模擬保育を楽しむことができると意識していることが示された。

以上より、Ⅰ回生の見学前に平均値が最も低い「ねらいの設定」「指導案の企画」「内容の整合性」「導入の工夫」「5領域との関連性」と、次に低い「時間配分」「臨機応変」「子の活動の予測」「個別配慮」「発達過程」については、選抜されたⅡ回生の模擬保育を見学することによって、行動可能性の意識が高くなり「自分もできる」と思うようになることが明らかとなった。Ⅱ回生になると教育実習指導の学びの中で、同輩の模擬保育を見学することにより更に行動可能性の意識が高まることが明らかになった。すなわち初心者学生は、身近で優れた先輩の模擬保育を見ることにより、保育を構成する項目への反応の平均値が見学前より高くなり、模擬保育を行う自信が高まり、ひいては実践力を高める契機となることが示唆された。Ⅱ回生においても同様に、自身も模擬保育を行い、同輩の模擬保育を

見学することにより、さらに「自分もできる」と思うことが明らかとなった。

### 3. 構想可能性と行動可能性の比較

構想可能性と行動可能性を比較すると、行動可能性の方が模擬保育の見学を重ねるにしたがって平均値が高くなる項目数が多かった。単に構想しイメージするよりも、自身が出来ると思う方が実感をもちやすいことが推察された。

### 4. まとめ

実習指導の授業の中で、Ⅰ回生が初めて出会う専門用語を用いて模擬授業を構想し遂行するにあたっては、先輩の模擬保育を見学することが非常に有効であることが明らかになった。これらの結果から、問題にあげた1~7の仮説についておおよそ支持される方向性が示された。

本研究により、Ⅰ回生にとって、優れた先輩の模擬保育を見学することや、自分が実際に模擬保育を行い、また同輩の模擬保育を見学し合うことは、模擬保育に対する可能性の意識の向上につながる事が明らかになった。具体的には、先輩の模擬保育を見学した後「振り返り」を行い、その「指導案作成」をⅠ回生自らも試みたこと、また同輩の模擬保育を指導案と照らし合わせながら見学し、見学後に授業の中で「保育への態度(身だしなみ、真面目さ)」「保育技術(声の大きさ、表情の豊かさ、言葉遣い、持ち時間への責任、子どもの受容、全体の子どもの様子の把握)」「準備」「内容の展開」等について評価し合い「振り返り」を行ったこと、その中で保育案作成、保育目標、環境構成、保育者の援助・配慮の在り方、子ども理解等の意味について再確認したこと等、授業の中で学んだことが意識の変化をもたらしたことを示唆している。またⅡ回生との横断的分析の結果は、Ⅰ回生のその後の意識の進展の過程を予測することを示唆している。

本研究の結果から、模擬保育を見学することは、初心者学生においては自信をもって保育実践に取り組む契機となることが実証された。Ⅱ回生においては同輩の模擬保育を見学することが、さらに可能性の意識を高め、豊かな実践力をもたらすことに繋がる事が示唆された。上村(2013)は、模擬保育の効果について、活動を振り返り考察し課題点を見出す省察力の向上を示唆し、模擬保育が即応力のみならず、見取り力、省察力を含めた総合的な保育実践力の向上に寄与する取

り組みであることを指摘してきた。また松山(2010)は仲間や保育者のアドバイスが学生自らの保育への考えを見直す作業を支えることを示唆してきたが、本研究からも同じ方向性が見出され実証されたといえる。

今後も、模擬保育見学や実際に模擬保育を行う学修の成果が、確かな保育の実践力へと結ばれるよう、教員間で模擬保育の指導の在り方を協議研鑽して行いたい。保育の専門家として学び続ける力の育成や、人間性豊かな保育者の養成を短期間で取り組んでいくことは、我々にとって重要な課題であるが、常に学生の意識に添いながら、その解決に向けて教員間連携を深めていきたい。

## 引用文献

- 畑啓子・池上貴美子・上田智佳・種子田順子 2017  
初心者学生の模擬保育見学による意識変容に関する縦断的調査. 甲子園短期大学紀要, 35, 47-52.
- 桐木建始 2002 ANOVA on the Web : <http://www.hju.ac.jp/~kiriki/anova4/>
- 松山由美子 2010 保育者養成における「保育実践力」育成のための学びの場 —模擬保育と学外学習に関する質問紙調査の結果からの考察— 四天王寺大学紀要, 第49号, 197-212.
- 文部科学省 文部科学省初等中等教育局教職員課  
2017 教育職員免許法・同施行法の改正及び教職課程コアカリキュラムについて(資料)
- 上村 晶 2013 保育者養成段階における保育実践力の向上に関する一考察(2) 高田短期大学紀要第31号, 79-88.

## 謝 辞

本研究は、甲子園短期大学研究者倫理規定の承認を受けました。倫理規定申請の手続きに当たり懇切なご教示をいただきました永藤清子教授に深謝申し上げます。調査に快くご協力くださいました甲子園短期大学幼児教育保育学科の学生の皆様に感謝申し上げます。本研究について貴重なご教示を賜りました前甲子園短期大学特任専任講師の新家智子先生に深く感謝申し上げます。